

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立諸富北小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	・研究指定を受け全職員で学力向上に取り組んだ。2年次となり、授業づくりについて職員の認識が深まるにつれ意欲も高まったことが、児童の学習意欲へとつながった。 ・人権意識・心の教育では、組織的にいじめや人権教育に取り組んだことが効果的であった。いじめについては、言葉の使い方やSNSへの指導など保護者との協力が一層重要となる。気持ちを言葉で正しく伝える力や相手の意図を正しく読み取る力をつけ、コミュニケーション力を高めることで、良好な人間関係を構築させることが必要である。 ・開かれた学校づくりは、昨年度に引き続き地域とつながる教育活動を充実させるために町内3校の協働やPTAとの連携を構築してきたことで、意識改革が図られている。来年度も継続して取り組み、充実させていく。その中で、生活習慣・食習慣についても保護者への啓発を一層進める。働き方改革の法案にのっとった取
------------------	---

2 学校教育目標	自ら学び、心豊かに、たくましく生きる児童の育成 ○子どもが生き生きと学習し、確かな学力を身に付ける学校 ○一人一人を大切にし、子どもが輝く学校 ○規律正しく、家庭・地域から信頼される学校
----------	--

3 本年度の重点目標	①学力向上に向け、国語科の授業研究を中心に、表現力や思考力（活用力）を高めていく。さらに、スキルタイムで基礎学力を着けていく。 ②すべての教育活動を通して、いじめや差別の防止に努める。 ③一人一人の特性に応じた支援を行い、自立と社会参加の素地を作る特別支援教育の推進を図る。 ④家庭や地域と情報を共有し、PTAと連携して教育活動を強化する。 ⑤基本的生活習慣や生活規律を重視し、情報発信を通して家庭への啓発に努める。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師の割合が100%になる。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修の時間等で確認していくことで取組の促進を図る。	・		・		・	松永・井上	
	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業及び習熟ための実践	○学習に関するアンケートにおいて「学習した内容がわかった、できるようになった」と回答する児童の割合が90%以上になる。	・どの教科でも「授業づくりのステップ1・2・3」を踏まえ、児童が「主体的に学ぶ時間」を確保することを意識した授業実践を行う。 ・学習の内容及び習熟に応じてTTや少人数といった学習形態の工夫を行う。	・		・		・	松永・井上	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童90%以上 ○心を育てる教育に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした保護者90%以上	・一人一人を大切にすると人権教室(年間3回)と「いじめ命を考える日」に人権・いじめ・命に関するアンケート(毎月)を適切に実施する。 ・道徳科の授業づくり、エンカウンターに関する校内研修等の実施	・		・		・	古川・黒田・小山	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていると回答した教師100% ○いじめのない学校づくりへの取り組みに関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした保護者90%以上	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直し、研修会を実施。 ・毎月の児童アンケート、年間1回以上の保護者アンケートを実施。 ・児童との個人面談を計画的に年間2回実施。 ・いじめ・不登校への対応を支援会議をもとにチームとして組織的に行う。	・		・			徳永・田代・相島	
	◎自らのよさや肯定感を高め、目標や夢をもって努力しようとする意欲を高める教育活動の推進	○Q-Uアンケートにおける学校生活満足群に属する児童が、1回目より2回目以上上がる。 ○「将来の夢や目標」に関するアンケートに肯定的な回答をした6年生90%以上	・児童が「わかった」「できた」を実感できるような授業づくりに向けて校内研修等の充実を図る。 ・良さ見つけカードや良い行動の共有・称賞などに取り組み、児童の自尊感情を高める。 ・自分の将来の夢や希望について考える授業を行う。 ・各種体験活動では、自分の成長を児童自身が自覚できるように、活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	・		・		・	井上・儀間・小山	
	●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○食育や健康教育への取り組みに関するアンケートにおいて肯定的な回答をした保護者が90%以上 ○ゲームやテレビ、インターネットなど家庭で決めた時間を守れていることに関するアンケートにおいて肯定的な回答をした保護者が75%以上	・学級活動において、「早寝、早起き、朝ごはん」の意識を高め、定期的実践を振り返り、生活時間と食事のとり方の改善を行う。 ・毎月1日の「ノーテレビデー・ノーゲーム・ノースマホデー」を定着させ、自主的、計画的に規則正しい生活を送る実践力を高める。	・		・		・	山崎・儀間・田代
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週の定時退勤日の確実な実施に努める。 ・勤務時間の自己目標を設定し、効率的な取り組みを意識的に行う。 ・各自の意識や実行力を高めるための研修会を年間に3回以上実施する。					・	徳永	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○地域・保護者との連携	OPTAとの連携による行事や教育活動の円滑な実施	○保護者参加型の教育講演会や座談会への参加者50%以上		・		・		・		
	○地域人材を活用し、地域の特色を生かした教育活動や体験的活動の推進	○地域人材、施設、文化財等を活用した体験活動への取り組みに関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした保護者90%以上。								・学級懇談やPTA活動の教育講演会などの機会に、スマートフォン等の使用状況や弊害、また、学力・学習の現状について教師と保護者、保護者同士の情報交換の機会や座談会を行い、学力向上、生活習慣の向上への機運を高める。 ・教育課程の中に人材活用や体験学習を位置づけ、総合的な学習の時間や各教科の時間において地域人材、施設、文化財を計画的に活用する。
○特別支援教育の充実	○交流学級の指示的風土作り ○地域や保護者への啓発 ○UD教育の充実	○特別支援教育に関するアンケートにおいて交流学級、校内における指示的風土づくりが進んだと回答をした職員90%以上 ○特別支援学級の児童の学習の様子を保護者や地域の方が参観したり、参加したりする活動を学期に1回以上実施する。		・		・		・		

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------